



情報誌

FAR

40 号

事務局：公益社団法人 日本放射線技術学会事務局内

〒600-8107 京都市下京区五条通新町東入東鋸屋町 167 ビューフォート五条烏丸 3F

TEL:075-354-8989. FAX:075-352-2556/http://www.jsrt.or.jp. Email:office@jsrt.or.jp

《ごあいさつ》

異常気象の昨今、如何お過ごし？

副会長 平林 久枝



遅い梅雨明けから酷暑の日々、熱中症予防対策が必須のこの夏です。早々と巨大台風の襲来で四国、中国地方から広範囲に豪雨による土砂崩れなどの甚大な被害が報じられています。被災された皆さまにはお見舞い申し上げます。この頃の異常気象に順応困難な昨今ですが、皆さまお元気でしょうか？FAR 会員も高齢化が進み患者として病院通いの予定が目立つのではないのでしょうか。私も時々病院に診療費を払いに行く身となりました。年金の減額、増税と厳しい生活が待ち受けて明るいニュースが見当たりません。2020 年の東京オリンピック・パラリンピック開催が唯一の明るいニュースでしたが、熱気も冷めて会場建設では揉めそうです。

サッカーのワールドカップ ブラジル大会の開会が危ぶまれる準備状態でしたが、完璧主義の我が国とは違いそれなりにやるものですね。サッカーは格闘技であることを知りました。サムライジャパンは大敗でしたが、日本のサポーターの「ゴミ袋応援」行動は世界から称賛されました。その反面、世界遺産の富士山の登山道や山中に平気でゴミを捨てるのは何とかならないのでしょうか？

第 42 回秋季学術大会は、小笠原克彦大会長の基に「Ambitious 2014-make the next frontier make the new future-」のテーマで 10 月 9 日～11 日に札幌で開催されます。勢いよく跳ねる鮭のポスターのように“Boys be ambitious”の地に相応しい大会となるでしょう。アンビシャス――、イノベーション――、プレミアム――のような実行委員会企画に意欲が現れています。現場を離れて久しく、理解できない用語も目立つこの頃ですが、我が FAR 会の Old boys? も頑張って参加しましょう。

何よりも、その後の恒例の旅が楽しみです。萩原康司代表幹事が企画された「2014 登別の名湯とアイヌ文化を巡る旅」では有名な庭園風呂に浸かり、美味しい料理・お酒を頂きながらの昔話となることでしょう。

頼もしい常連の参加者に加えて FAR 会に元気な新会員が参加されることを期待します。かつては、”ザル酒 “の輩も居て観光バスの中の酒盛りは賑やかだったことを懐かしく思い出します。二日目のクマ牧場、アイヌ民族博物館、インデアン水車と盛り沢山の旅が楽しみです。

北海道と言えば、技師学校の夏休みに友人達と国鉄の均一周遊券でキャンプをしながらの貧乏旅行で、冷たい洞爺湖で泳いだ事を思い出します。半世紀後に FAR 会の皆さまと高級ホテルで御馳走を食べて観光旅行ができるとは考えも及ばないことでした。FAR 会の登別の名湯とアイヌ文化を巡る旅を楽しみにしています。

内 容

- | | |
|------------------------|-----------|
| 1. ごあいさつ | 副会長 平林久枝 |
| 2. 秋季学術大会へのお誘い | 大会長 小笠原克彦 |
| 3. 会員動向 | |
| 4. 会からのお知らせ | |
| 5. 特別寄稿 {イランカラッテ} | 札幌市 萩原康司 |
| 6. 特集「人生のターニングポイント」 | |
| 1) 「人生のターニングポイント(1)」 | 池田市 金尾啓右 |
| 2) 「私の人生におけるターニングポイント」 | 川越市 森 克彦 |
| 7. JSRT 情報 | |
| 8. 連載《ご当地自慢》 | 福岡市 佐藤幸光 |
| 9. 編集の小窓 | |

~~~~~

## 《秋季学術大会へのお誘い》

### 歓迎のご挨拶

—有朋自遠方來、不亦樂乎。—

第 42 回秋季学術大会 大会長 小笠原克彦



日頃より、ご指導ご鞭撻を賜り感謝申し上げます。北海道部会部会長の小笠原（北海道大学大学院保健科学研究院）でございます。この度、第 42 回秋季学術大会大会長を拝命し、平成 26 年 10 月 9 日（木）から 11 日（土）まで、札幌コンベンションセンター（札幌）で開催いたします。

先生方がよくご存じの『朋有り、遠方より來たる。亦た楽しからずや。』ですが、この言葉は、まさに今の私の心境そのものです。この言葉を私の心境に合わせて解釈しますと、「放射線技術学の道を志す日本中および世界中の放射線技術者が、はるばるここ札幌コンベンションセンターに集う。そして、放射線技術学について、自分の日頃の研究成果を発表し、また、全国の仲間の研究成果を勉強し、そして「ススキノ」で交流を深める。なんと楽しいことではないか」となるのでしょうか？

第 42 回秋季学術大会ですが、お陰様で全国各地からポスター発表を含め 580 演題もの多くの応募を頂き、実行委員会一同、最高の大会を目指して準備をすすめております。大会テーマを「Ambitious 2014 - make the next frontier, make the new future -」として、放射線技術学の実務者・研究者に世界最高峰の学術賞であるノーベル賞に触れて頂きたいとの強い思いから、2010 年ノーベル化学賞を受賞された鈴木章先生に特別講演をお願いいたしました。また、実行委員企画として、従来の枠に収まらないテーマを中心に、国際化推進、学術推進、臨床技術推進を目指したアンビシャスシンポジウム、北海道プレミアムシンポジウムなどにチャレンジいたしました。どうぞ大会でお時間のある時に実行委員会企画に参加して頂ければと思います。

第 42 回秋季学術大会では、グローバル化が進む放射線技術科学に対応するため、3 年ぶりに国際放射線技術科学会議(ICRST; International Conference on Radiological Science and technology)を同時開催いたします。今回は第 2 回として、真田茂大会長のもと、英語での一般口演 29 演題に加え、被ばくに関する先進的な研究をされているクリーブランド州立大学 Xiang Li 先生、デューク大学の Donald P. Frush 先生、弘前大学副学長の柏倉育郎先生にご講演頂く予定です。

第 42 回秋季学術大会、そして札幌を楽しんで頂くために、情報交換会にはジギスカンをご用意いたしました。場所は、大会が開催されている札幌コンベンションセンターから、交流を深める場所としては絶好なススキノに場所を移して開催いたします。是非、新旧の交流を深めて頂ければと思います。どうぞご期待ください。

実行委員会一同、皆様のご来場を心よりお待ちしております。今後とも、よろしくお願い申し上げます。

~~~~~

《会員動向》

・会員数（平成 26 年 7 月 31 日現在）：97 名

・新入会者（平成 26 年 4 月 1 日以降）：1 名

花井耕造（東京都港区）5 月 9 日付け入会

・会費未納による退会者（平成 26 年 4 月 1 日以降）：1 名

矢野善四郎（奈良県奈良市）5 月 15 日付け

・死亡退会者（平成 26 年 4 月 1 日以降）：1 名

山岸一雄（埼玉県加須市）平成 26 年 5 月 1 日逝去

~~~~~

## 《会からのお知らせ》

### ・懇親活動関係

- ①第 42 回秋季学術大会時にあわせて「2014 登別の名湯とアイヌ文化を巡る旅」を平成 26 年 10 月 11 日～12 日の予定で開催（詳細は第 39 号掲載済）
- ②第 71 回総会学術大会時にあわせて開催予定の「2015 懇親の夕べ」の内容は次号第 41 号（平成 27 年 1 月 15 日発行）に掲載予定

### ・FAR 会「旗」の作製

懇親活動開催時の集合場所等が判り易い様にするため、山田勝彦会長と相談の上、FAR 会シンボルマークを基調としたデザインの「FAR 会の旗」（縦：30cm、横：45cm）を作製した。  
今後、懇親活動等 FAR 会催し時に使用致します。



### ・会議関係

- ①平成 26 年度「第 1 回運営委員会」と「第 1 回総務委員会」との合同委員会を 8 月初旬にメールによる文章会議開催予定
- ②平成 26 年度第 2 回世話人会議：平成 26 年 10 月 11 日 午前 10 時より開催予定（札幌市）

## ■■ 訃 報 ■■

山岸 一雄（日本医科大学付属病院：元技師長、東京部会名誉会員）先生は、5 月 1 日夜半、虚血性心機能不全で逝去されました。享年 83 歳

先生は、第 35 回総会準備委員長・第 38 回総会会長及び東京部会長 3 期務めるなど学会に多大な功績を残されました。

ここに哀悼の意を表しますとともに、心からご冥福をお祈り申し上げます。（合掌）

## 《特別寄稿》

### イランカラテ（アイヌ語のこんにちは）

札幌市 萩原 康司



今、北海道では、「イランカラテ」の挨拶で、おもてなしの合言葉にしようという運動が始まりつつあります。アイヌ文化のふるさととは、北海道です。アイヌの人々は、この地で言語や舞踊など豊かな文化を育んできました。

今回の秋の FAR 会の旅は、「登別の名湯とアイヌ文化を巡る旅」です。そこで、アイヌ文化について書いてみます。

アイヌの人々は、動物や植物・火や水などの他、生活用具など人が生きていくた

めに必要なもの、また自然や病気など人間の力ではどうすることも出来ないものを「カムイ＝神」として敬いました。親しい人が集まった時や儀式の時は、必ず歌や踊りがつきものです。踊りには楽器は使われず、歌と手拍子で踊ります。（この踊りは、白老ポロトコタンの民族博物館で見学の予定です）衣裳には、独特の文様が施されております。言葉は、アイヌ独自の言語で文字は持ちません。つまり、全て伝承文化です。

さて、今回は北海道の地名について解説したいと思います。まず最初に、何時どの様にして北海道と呼ばれる様になったかです。明治2年、明治政府は蝦夷地に名称を付けるべく、北海道開拓判官であった松浦武四郎に名称の上申を命じました。武四郎は、2度に亘ってアイヌの古老の案内で、蝦夷・樺太・千島を調査しており、この時、古老達がお互いの事を「カイナー」と尊敬の念を持って呼び合っており、この「カイ」と言う言葉に感銘を受けた様です。（カイ＝この地に生まれし者・ナー＝尊敬語）そこで、5幾（山城・大和・河内・和泉・攝津）7道（東海・東山・北陸・山陰・山陽・南海・西海）にちなみ6つの案を上申しました。（日高見道・北加伊道・海島道・海北道・東北道・千島道）この6つの中に「カイ」が3つも含まれております。審議の結果、（北加伊道と海北道の折衷案として「北海道」が選ばれ、明治2年8月15日に太政官布告として、正式名称となった訳です。

さて、北海道各地の名称は、下記の5つに大別できます。

- ①アイヌ語の発言に、漢字を当てはめる（音訳）
- ②アイヌ語の意味に、漢字を当てはめる（意訳）
- ③アイヌ語の発言を、そのまま仮名にする
- ④開拓者の出身地を地名にする
- ⑤その他

今回は、①と②について少し書き③～⑤は、別の機会にゆずります。

#### ①札幌（さっぽろ）

中心を流れる豊平川は、定山溪温泉の奥の溪谷から流れ出て扇状地に入り、急激に広がりを見せ乱流となっていた様です。しかし、一旦乾期になると乾いた大きな原野が広がっており、アイヌ語でサツ（乾く）ポロ（大きな）ベツ（川）と呼ばれたことにより札幌の字が当てはめられた。

#### 知床（しれとこ）

シリ（地面の）エトク（出張った先端）に漢字が当てはめられた。別名、モシリ（国の）パ（頭）とも言われ、地の果ての意味ではなく、龍の頭の意味もあるとされる。

#### 登別（のぼりべつ）

幕末の紀行文に「川水黄色にして甚だ濁る」とある様に、昔は地獄谷の硫黄が川に流れ出ていた様で、ヌプリ（水の色濃い）ベツ（川）から、登別の漢字が当てはめられた。

#### ②長沼町（ながぬまちょう）

北海道の中央を流れる夕張川の上流に2つの大きな沼があります。上流の沼は、幅700m、長さ4000mと長いことから、長沼と呼ばれています。

#### 砂川市（すながわし）

ウタシ（砂浜のついで）ナイ（川）から、砂川市に。また、発音をそのままの歌志内市も存在しております。

#### 虎杖浜（こじょうはま）

タツ（イタドリ）クル（群生する）シ（処）から、イタドリの漢字が虎杖と書くことより虎杖浜となった。

まだまだ、沢山ありますが、今回は、この辺りにします。

**2014 登別の名湯とアイヌ文化を巡る旅の参加状況**

**8月29日現在、23名**







民族楽器「ムックリ」を演奏する伊藤里美さん。  
ビョーン。ビョーンと独特な音色が響き渡る

豊かな緑が広がるボロト湖畔。  
其の奥の森「手刈」が建ち並ぶ

仁徳の帝として天下の國し、大業を成し、日者二二を人

も参加した札幌市中央区で

「茶碗番」の茶会の様子。和服を着た男女が茶碗を手に持ち、観客の前で茶を奉じる。観客は和服を着た男女と子供たちで、茶会を楽しんでいる様子。

豊かな緑が広がるボロト湖畔。

性に含ませて、アイヌも熊谷さんも8年後にたのみの「民族共生の象徴となる公園」（国立博物館や公園、慰霊施設とアイヌに興味をもつ世代の人たちにも、アイヌに興味をもつてもらえたら」と願うことが、今年6月に決まった。伊藤さん

部）

【写真・文 水塚耕

アイヌ文化を次世代に継承の記事（毎日新聞）



イランカラプテのパンフ1

イランカラプテのパンフ2



### イランカラプテのパンフ3

イランカラプテのパンフ 4

## 《JSRT 情報》

『第 42 回秋季学術大会』 大会テーマ：「Ambitious 2014

– make the next frontier, make the new future –」

次のフロンティア、新しい未来へ 大志を抱いて

大会長：小笠原克彦（北海道大学大学院保健科学研究院）

会 期：平成 26 年 10 月 9 日（木）～11 日（土）

会 場：札幌コンベンションセンター

『第 71 回総会学術大会』 大会テーマ：「Be cool and Practical」

大会長：平野 浩志（信州大学附属病院）

会 期：平成 27 年 4 月 16 日（木）～19 日（日）

会 場：パシフィコ横浜会議センター他

## 《原稿・作品募集》

【第 41 号特集テーマに対する原稿募集】（1 月 15 日発行予定）

■□■□■□「散策の小径」□□■□■□

今回の特集のテーマを「散策の小径」とさせて戴きます。ご自宅の近くの散策、職場の近くの散策、特別な思い出の場所を散策したことなどを纏めて戴き、ご応募願います。

特に、特集のテーマにまだ一度も応募されていない会員は、自分自身をアピールする機会ともなりますので応募宜しくお願い致します。勿論、既に複数回応募されている会員の応募也大歓迎です。

記

原稿内容：副題（自由にお付け下さい）

原稿文字数：800 字～1200 字（400 字原稿用紙 3 枚以内）

写 真：ご自身の写真（半身）文字数に含みません。内容に関する写真及び図表は、1 枚につき原稿文字数から 100 文字を減じて下さい。

写真・図表は、デジタルデータ（JPG、PDF、EXL 等）を基本としますが、アナログデータも可。

原稿形式：ワード、一太郎、TEX 等（ワープロ、手書きも可）

提出期限：平成 26 年 12 月 15 日必着でお願い致します。

送 付 先：森 克 彦 〒350-0064 川越市末広町 1-11-22 宛

E・m・a・i・l：mo-katsu@jt4.so-net.ne.jp mokamokawh@gmail.com

## 《特 集》

### 「人生のターニングポイント」

#### 1) 人生のターニングポイント（1）

池田市 金尾 啓右



昭和 25 年、広島県深安郡中条中学校の卒業が近づいた。

私は、我が家の生活維持のため、とても高等学校に行く環境ではなく、進学断念の傷心から、庭の片隅にある、割れ竹で自作した鶏小屋に潜り込んだまま、そこに何時間もうずくまっていた。とうとう母が捜し当てて、出てくるように言われた。

猪原先生が、金尾君の学資を出してあげようと言って下さったのだが、私は学資どころではなく、家族の生活維持のためにも働く必要があったのでお断りした。

卒業の翌日、私は卒業証書と、成績書を持って、福山の職業安定所を訪れ、「どこかに仕事はありませんか」とお願いをし、市内の一軒の自転車卸商を紹介してもらおうとそのまま家に帰らず、その商店に住み込みで働くことになった。福田商会という名だった。

啓右、自転車卸商の住み込み店員になるが、あらぬ疑いをかけられて・・・



主人は、はげ頭の小太りであった。奥さんも似たもの同士というか、要するにこの夫婦は金がすべてであった。「金尾、この世に学歴なんか要らん。勉強なんかするな。世の中金がすべてだ、金だ、金だ、金さえありゃあ問題は全部片付く。金、金」と、いつも叫んでおった。

自転車に乗るのには私は経験が浅かった。中条の新制中学校時代に、姉の自転車を借りてチョコッと練習しただけであった。その時も、田んぼにまっすぐ飛び込んで、コンクリートの堤であやうく大怪我をするところだった。だから重荷用の、タイヤが太くてハンドルが浅い形の、重た〜い格好の自転車に、商品の自転車部品を積んで、福山から府中に運ぶときは大変だった。大峠（おおたお）の坂道にさしかかると、体重の軽い私が乗った自転車は、前輪がフワッ、フワッ、と浮き上がって思わず冷や汗が背中を流れ、自転車から下りて、エッチラオッチラと徒歩で数百メートル先の頂上目指して上ったものだった。こけつ、まろびつ、やっと府中に着いた時、新品のはずの部品が大分傷ついていた。

新市町の藤原自転車店のご主人は、私のことを気にかけて下さっていた。「金尾君、大阪に出て働かないか、こんなところにいるより勉強もできるし、君なら私が喜んで紹介してあげるよ」と、やさしく言われても、一人で大阪になんてとても怖くて行けない。結局お断りしたのもこの頃である。

だんだん自転車に乗ることがうまくなり、手離しで乗ることもよくあった。重荷用自転車に乗ってそのままトラック後部の取っ手につかまる只乗り？もよくやった。よれよれの白い長袖シャツの腕をまくり、ボタンを全部はずし、シャツの裾もズボンからはみ出しておくと、シャツの裾がパア〜と広がり、颯爽と後ろにたなびき格好いい？

毎月、給料日になると、末妹の佳代子が中条からバスで私のところにやってくる。顔を合わせると彼女は片手を出す。給料袋を渡すと、さっと受け取って、ものも言わずにそのまま帰る。まことに味気ないものであった。お互いまだ小さいし、大人びた会話などとても出来ない。実にあっさりしたものであった。

この年、覚悟を決めた。夜学でもいいから勉強したい。これから10年間はまっしぐらに、何も考えないで働こう。10年経ったら、その時に改めて目標を考えようと。それで、高校の通信教育に申し込み、資料を貰って勉強を始めたが、たちまちのうちに頓挫した。

2年ほど経ったある夏の夜、私は叩き起こされた。主人夫婦が「昨夜たんすの中の金を盗んだ者がいる。お前が盗んだのなら何も言わないから早く出しなさい」「冗談じゃないですよ。私は盗んでいません」「そう言ってもこっちには証拠があるんだ」「じゃあ説明してください」「それじゃあ言うが、尾道の占い師に占ってもらったんだ。井に水を張ってな、その上に米粒を包んだ小さな紙を置いたんだ。最後に沈んだ紙にはな、お前の名前が書いてあったぞ。ほかの名前の米包みはみなお前よりも先に沈んだ。これでも盗んだと言わないのか」。この家族には私立中学校に通学している一人娘がいて、これまでもお金がなくなることは何度か聞いていたし、自分の娘をよく折檻しているのも耳にしていた。

ま、これには嫌気がさして程なくして職を変えた。辞めるときには母親に来て貰い、母から私の退職を言ってもらった。私は、自分の具合の悪いときにはよく母をだしにした。母はまた、いつも苦も無く承知してくれて、私のいう科白（せりふ）をそのまま言ってくれていた。昭和27年（1952）19歳頃か。続く



## 2)私の人生におけるターニングポイント

川越市 森 克彦



筆者が東京都立診療エックス線技師養成所の2年生（昭和43年）の8月初旬に来年の卒業後の就職先について同級生K君より同じ埼玉県在住だから県庁の診療所（仮称）開設に当たり、2名のレントゲン技師を募集しているので応募しないかと誘われたので特に気にすることもなく、一緒に就職して働こうかと返事をする、既に応募要項を準備していて手渡してくれたので、必要書類を作成して郵便にて発送しました。その後、

10月に入ると埼玉県庁より採用通知が送付されてきたので、K君に確認したところ採用通知が来ているとの事でしたので、2名以外に応募者がいなかったことから、採用となったと喜び合い、国試対策に本腰を入れようと話し合っていると就職の決まった人たちは暢気でいいなと仲間からからかわれました。

年も変わり2月（昭和44年）に入り突然、埼玉県庁より採用取り消し通知が送付されてきました。採用取り消し理由は詳細には記されていなかったが、次年度新規事業予算が確保できないとの理由が明示されていたと記憶しております。その後、埼玉新聞などによると埼玉県知事の厚生事業に係わる汚職事件によるものであったことを知りました。仕方がないので、再度就職先を養成所の掲示板にて探していると同級生のM君が通りがかり、自分の就職先に定員1名の空きがあるので、良かったら紹介するよとの話に乗り、3月初旬に日本医科大学付属第一病院の放射線科に案内してもらい、山岸技師長（本年5月1日：他界）に就職のお願いをすると、君は、お酒は飲めるのかと尋ねられたので「一般の成人程度」には飲みますと答えるとコップに日本酒を注ぎ、飲みなさいと言われたので一気に飲み干すと「合格・採用」と言われたことを今でもよく覚えております。勤務は3月25日より始めました。当時は、8ヶ月の見習い期間を経て後、本採用となりますが、俸給は、日給月給扱いで支払ってもらいました。当時は、山岸技師長が学会活動（総会準備委員・支部の役員等）を活発に行っていた関係で筆者も多くの活動に参画して自分なりの成果を出し、平成22年の3月に日本医科大学付属多摩永山病院にて41年間の務めを無事に終了することができたとき、筆者の人生におけるターニングポイントであったことを思い起こさずにはられません。

日本医科大学付属第一病院は、大正13年（1924）に千代田区飯田橋の地に、日本医学専門学校飯田橋医院として開院し、昭和6年（1931年）日本医科大学の付属の病院として、日本の医学教育並びに医療の発展に貢献してきましたが、平成9年（1997）9月30日に閉院となりました。筆者が勤務したところの病院外観を斎藤院長（外科の教授）がスケッチされた絵葉書を退職記念として、第一病院職員全員に配布されたのが下記のもので、往時をもっとも忠実に再現しているものと確信しております。当時の病院写真は、手元にはありませんので、ネットより検索して掲載しましたのでご覧ください。

この稿を終るにあたり、本年5月1日に永眠されました、恩師・山岸一雄先生に哀悼の意を捧げるとともに生前の公私にわたるご厚情に謝意を表します。



1986年（昭和61年）9月23日



1972年（昭和47年）4月2日（絵葉書）





1988 年（昭和 63 年）1 月 15 日

## 《連載》ご当地自慢

### 「城下町の風情漂う人吉探訪」

福岡市 佐藤 幸光



平成23年4月に開学した純真学園大学 放射線技術科学科の教員として福岡の地に着任して以来、家内の実家がある人吉の地に小さな別邸を構え、大学の行事等がない日には、金曜日の夕方から福岡市内の都市高速経由で太宰府 IC から九州自動車道に入り、自家用車で約2時間20分程度で人吉に着きます。週末は格安のかけ流し温泉に浸かりながら、人吉周辺の自然に触れてのんびりと人吉の自宅にて過ごしています。埼玉の自宅から通勤して、東京の大学病院勤めの時代と福岡の地で大学教員生活の時間の刻み方を比べてみると、人吉で過ごす時間の進み方がゆっくりであることを実感する今日この頃です。それでは、人吉の街並みを紹介していきましょう。

#### 【人吉市の歴史】

人吉市は、九州山地の連山に囲まれた盆地で、市域の面積は210.48k㎡、市の中央部を日本三急流の一つである球磨川が東西に貫流しています。球磨川下りは、人吉城城址の対岸にある船場から出発し、球磨村渡（わたり）までの清流コース、球磨村渡発船場から球泉洞下までの急流コースがあり、後者の方はスリル満点で圧巻です。この他、ラフティングにも、観光客が押し寄せて賑わいを見せています。



人吉橋から見た球磨川



鮎の友釣りの醍醐味

球磨川の急流をライフボートで下りますが、水しぶきを浴びながらの自然と一体感を味わいながらのスポー

ツです。また、球磨川は鮎魚のメッカでもあり、鮎解禁の時期には、全国から人吉の地に太公望の皆さんが集まり、球磨川に腰までしっかりと浸かりながら、友釣りの妙技を競い合っている姿が散見されます。

文献にはじめて、地名が現れるようになるのは平安時代中期とのことであり、まず、この地方の総称である「球磨」という文字は、南九州の有力な部族であった「熊襲（くまそ）」が「熊縣（くまあがた）」に、いつの日か、地名の「球磨（くま）」になったものといわれています。同時期ころ、「人吉」の地名も現れて、醍醐天皇（898～921 年）の時代の「和名抄」に、球磨郡に球玖・久米・人吉・東村・西村・千脱の六郷があると出ています。人吉の語源は、人吉が、当時、日向（宮崎県）、薩摩（鹿児島県）佐敷（熊本県芦北町）を結ぶ交通の要衝であり、「舎」つまり、宿があり、これを“ひとよし”と読んでいたため、「人吉」となったとする説があるといわれています。

相良氏六百七十年の居城の一節によれば、藤原為憲の曾孫周頼（かねより）が初代で天永三年（1112）に相良の荘司として土着、その後五代八十余年続いた。世は源平の争乱を経て、鎌倉幕府による武家社会となり、建久九年（1198）に六代目長頼が臼間の荘（人吉市）の地頭に任ぜられて相良の地を離れた。これが人吉における相良氏の始まりとなったのである。人吉は平氏の所領だった地で平頼盛の臣矢瀬主馬助が城館を構えていた。相良長頼は館の明渡しを要求したが、主馬助はこれを断った。長頼は主馬助を討取ってその城館に入ったのである。人吉の主となった長頼は直ちに城館の修築に取り掛かった。これが人吉城の始まりとされる。

この工事中三日月文様の奇岩が出たので人吉城のことを別名三日月城とも呼ぶようになったと書かれています。



堀合門：城主の住む御館の  
北の裏門である。平成 19 年に復元



水の手門跡：球磨川に面した船着場



本丸跡：天守閣は最初から  
計画されず、望楼櫓が建てられた



二の丸跡

人吉市には、国宝としても名高い青井阿蘇神社があります。本神社は、大同元年（806 年）に創建され、阿蘇の広大な原野を開拓し、その守り神として阿蘇山のふもとに鎮まる阿蘇神社の御祭神十二神のうち、三神の御分霊が、重陽の日、9 月 9 日に青井阿蘇神社に祀られたとのことです。人吉球磨地方の総鎮守であり、



最大の神社として 1200 年の歴史を有しています。平成 20 年 6 月に、五棟社殿群（本殿・廊・弊殿・拝殿・桜門）が国宝に指定されています。

本神社のシンボルでもある茅葺きの桜門や桃山時代風の建築様式や彫刻などに目を見張るものが多々あります。

地元の人たちは、大晦日からお正月にかけて多く集まり、大変な賑わいを放っています。



青井阿蘇神社の鳥居

社殿の特徴は以下の通りです。

- ① 急勾配の茅葺（かやぶき）屋根や軒から下を黒漆塗としつつ、組物や部材の面に赤漆を併用する技法など人吉球磨地方の独自性の強い意匠を継承している。
- ② 彫刻や彩色、鰯（かざり）金具などは桃山期の華麗な装飾性を機敏に摂取しており、その後の当地方社寺造営の規範となっている。
- ③ 廊の龍にみられる秀麗な彫刻や特異な拝殿形式は、広く南九州地にその影響が認められる。（人吉市役所HP上より引用）

市内の町並みの通りの一角に鍛冶屋町がありますが、名前の通り、鍛冶職人の町であったそうで、現在では、2 軒の鍛冶職人が実在しており、昔からの技術を披露してくれる何とも、郷愁を覚える佇まいを呈しています。石畳に沿って、味噌・醤油で有名な釜田醸造所やお茶の立山商店などが軒を飾っています。



鍛冶屋町界限

人吉球磨地方には、相良三十三観音めぐりと称して、春と秋のお彼岸には、多くの巡礼者が訪れています。私も人吉に帰ってきたときには、数か所の観音様巡りをしています。全部は踏破できていません。機会を見て、ゆっくりと札所を巡ってみたいと思っています。人吉球磨地方にも多くの寺院がありますが、市内の土手町にある永国寺は、1408 年に創立されたお寺で、相良九代前続公の開基により、実底超真和尚が開山され、現在の住職で 40 代になっているとのこと。永国寺は、「幽霊の掛軸」が本堂の中に掲げられており、西郷隆盛が西南の役で敗れたあとに、退陣する際に本営を置いていたことでも知られています。一度、永国寺の本堂で幽霊の掛図を拝見しましたが、思っていたより、恐ろしい感覚には、至らなかったのが不思議でした。



永国寺（幽霊寺）



幽霊の掛軸（初代実底和尚作）

#### 【人吉温泉】

人吉市内には、1 回 200 円から 400 円程度で入浴できる 20 数軒の公衆温泉があり、自称、温泉オタクと称している私にとっては、地元の人たちの球磨弁を聞きながら（なかなか聞き取れない方言もありますが）、ほとんどの温泉場はかけ流しで、弱アルカリ炭酸泉に浸かっているときに、至福の時間になる瞬間でもあります。何とも贅沢な話です。人吉に滞在しているときは、温泉巡りが日課となっています。とくに、市内にある堤酒造の隣にある堤温泉には、よく足を運んで、時間帯によっては一人貸切りのかけ流し温泉に浸かっています。現在のところ、約 8 割程度の温泉場を巡っていますが、それぞれの温泉の泉質の違いを感じながら、時間の許す限り温泉を堪能しています。





公衆温泉 元湯



公衆温泉 堤温泉

### 【球磨焼酎】

球磨といえば球磨焼酎、この球磨焼酎は、熊本県南部の人吉・球磨地方に産する焼酎の呼称であり、米を原料とし、地元の地下水で仕込んだもろみで蒸留して作られています。その蒸留方法には、常圧と減圧の2種類による方法があるそうで、芳醇な濃（コク）がある常圧蒸留酒と軽快な酒質を作り出す減圧蒸留酒があるとのことですが、お酒好きの皆さんには、どちらのお酒がご所望でしょうか。すっきりとした味わいが特徴です。現在、人吉球磨地方には28軒の蔵元があり、それぞれの蔵元で技術を競い合いながら味わいのある焼酎を提供しています。以下、主な銘柄を供覧します。地元の人たちにどのお酒が一番ですかとお聞きしますが、人それぞれの好みがあり、一言では言えないそうです。お酒に弱い私にとっては、利き酒をしながらお酒の善し悪しを決めることはできませんが、一度、FAR会の皆さんで球磨焼酎のツアーを組んで、球磨川の鮎と鰻、馬刺し、辛子レンコンなどを酒の肴にして、人吉にお越しいただければと思っております。「鳥飼、織月、しろ、房の露、大石」等々銘柄の焼酎がよく飲まれているようです。球磨焼酎の主な銘柄は次の通りです。FAR会の皆さんには、馴染みのあるお酒があるかと思います。



(資) 鳥飼酒造場



(資) 潤田酒造場



球磨焼酎 (株)



織月酒造 (株)



(資) 寿福酒造場



(資) 深野酒造本店



(資) 福田酒造本店



(資) 大和一酒造元



高橋酒造 (株)

|                                                                                     |                                                                                      |                                                                                       |
|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
|    |    |    |
| <u>(株) 白岳酒造研究所</u>                                                                  | <u>(有) 湊田酒造本店</u>                                                                    | <u>六調子酒造 (株)</u>                                                                      |
|    |    |    |
| <u>常楽酒造 (株)</u>                                                                     | <u>(資) 松本酒造場</u>                                                                     | <u>松の泉酒造 (資)</u>                                                                      |
|   |   |   |
| <u>(資) 高田酒造場</u>                                                                    | <u>(資) 宮原酒造場</u>                                                                     | <u>(有) 那須酒造場</u>                                                                      |
|  |  |  |
| <u>木下醸造所</u>                                                                        | <u>房の露 (株)</u>                                                                       | <u>(株) 堤酒造</u>                                                                        |
|  |  |  |
| <u>(株) 恒松酒造本店</u>                                                                   | <u>(資) 宮元酒造場</u>                                                                     | <u>抜群酒造 (資)</u>                                                                       |



|                                                                                   |                                                                                    |                                                                                     |
|-----------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
|  |  |  |
| (名) 豊永酒造                                                                          | (資) 林酒造場                                                                           | (資) 大石酒造場                                                                           |
|                                                                                   |                                                                                    |                                                                                     |
|                                                                                   |                                                                                    |                                                                                     |

#### 主な球磨焼酎の銘柄

##### 【人吉の食事処】

熊本県下でも、人吉市の「鰻のうえむら」は大変有名なお店で、バスツアーの団体が入店する賑わいです。日曜日の昼の時間帯は、行列ができる始末です。老舗だけあって、鰻は肉厚で、弾力があってとても美味しく、とても得をした気分になるのは私だけではなさそうです。人吉に訪れた折には、是非とも、皆さん方に味わっていただきたいものです。



鰻のうえむら



鰻めし

人吉市内に数多くある居酒屋の中で、私がお気に入りの居酒屋の2店舗を紹介します。その1店舗に「金七」があります。このお店の表看板お品書きの字は、私の知り合いの方による作です。このお店のコース料理の中で、串焼き、串上げ（カツ）、魚料理、（ゴマ鯖）、生のキャベツ、豚足、かま揚げうどんなどが圧巻です。今まで豚足はあまり馴染みがなく、口にしたことがなかったのですが、弟夫婦に勧められていたところ、コラーゲン豊富で抵抗なく口に入れることができました。意外と淡泊な味わいでした。もちろん、地元の球磨焼酎や鹿児島県の芋焼酎なども沢山陳列されており、お酒好きの皆さんには、ニンマリの至福の時を感じてもらえると思います。



居酒屋 金七



居酒屋 ひがし

もう1店舗は、自宅から歩いていけるところにある、「居酒屋 ひがし」は、焼き鳥のコースのあるお店、とくに、金、土曜日は予約が必要のようです。

とても美味しい焼き鳥コースがお勧めです。どちらかというと、店構えとしては、若向きの様相を呈しているかもしれませんが。両店も東京で食する感覚から言うと、かなりリーズナブルな金額で満足感が得られます。安くて、味も良く、新鮮な食と出会えるのも何ともし難い限りです。

洋食系がお好きな方のためには、もう1店あります。永国寺から徒歩で3分程度のところにある「洋食レストラン エルマナス」です。店内は、クラシックな調度品があり、BGMとして、良質なBoseのスピーカから流れるジャズは格別で、演歌歌手の八代亜紀さんの描いた人物画やピカソなどの絵もいたるところに飾っており、ゴージャスな気持ちで、落ち着いて食事を楽しむことができます。人吉に戻ってきたときは必ず出向いて、こちらのお店の看板メニューの一つでもあるハンバーグをいただくのを楽しみにしております。お肉のまろやかさとソースとのコラボレーションは絶品です。



洋食レストラン エルマナス

#### 【人吉駅とからくり時計】

人吉駅の前にある人吉城をイメージした「からくり時計」があり、各時間の時報とともに、からくり時計が作動し、矢印で示した場所に、城の一階部分から臼太鼓踊り手達が登場してある時間開放となり、民謡の「球磨の六調子」をアレンジし、曲にのせて展開されます。

(熊本県 地域発 ふるさとの自然と文化より)



人吉駅前

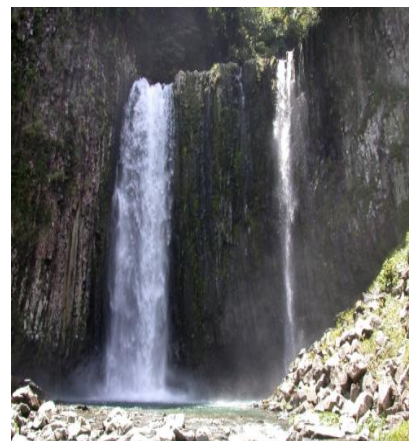


人吉駅前のからくり時計

#### 【鹿目（かなめ）の滝】

鹿目の滝は、市内から4Kmくらいの位置にあり、日本の滝100選にも選ばれている滝です。鹿目の滝には、平滝、雄滝、雌滝の3つの滝があり、球磨川支流の鹿目川に上流側から、平滝、雄滝があります。鹿目川の雄滝の少し下流に流れ込んでいる支流に雌滝があります。3つの滝ともに鹿目溶岩の柱状節理（柱状の割れ目）のある場所にあります。滝壺の周辺まで近寄ってみると、とても清涼感が漂う、神聖な気持ちにさせてくれます。水一滴の連続が成す業でしょうか。

(熊本県 地域発 ふるさとの自然と文化より)



鹿目（かなめ）の滝



### 【終わりに】

高校3年生まで北海道の知床の地で過ごし、その後、東京に出て学業を終え、30数年の大学病院での仕事から離れて、今は福岡の地で学生の若いエネルギーを浴びながら教員生活を送っています。大学病院に在職していれば、今年がその定年を迎える歳になっていることを考えると、今なお、現役を続けていることから「定年」という歳の実感がないというのが現在の心境です。

先日、埼玉の自宅に役場より届いた封書を開封してみると、そこに「介護保険被保険者証」が同封されておりました。それを手にしたとき、これは間違いなく65歳を迎えた証として高齢者の域に入ったと認めざるを得ないと感じた次第です。現在、FARの会員でお元気にお過ごしになっている先輩の先生方が定年を迎えられた時の心情は、いかがなものであったか脳裏をかすめました。定年後のライフスタイルの在り方や心豊かな時の過ごし方など、機会がありましたら先生方にお聞きしたいものです。いつか現役を去る時に、「定年」という2文字を受け入れなければならないのでしょうか。

このたびは、「城下町の風情漂う人吉探訪」と題し、人吉市の町並みの様子的一端をお伝えしましたが、人吉は字のごとく、人の良さを感じさせてくれる方々が多く、大変気に入っているところです。人吉球磨地方以外でも人の心を魅了してくれるサイトはたくさんあります。いつの日か、人吉の地でFARの会の皆さんと再会できる日が招来することを願っております。

このたび、FARの会報に執筆の機会を与えていただきました、公私ともに師と仰ぐ、森 克彦先生に感謝申し上げます。

FARの会の益々のご発展を祈念しております。

### 【参考資料】

- ・人吉市ホームページ
- ・市内観光パンフレット
- ・球磨焼酎作り動画

<http://www.youtube.com/watch?v=qQAMBw61v00>

### 《編集の小窓》

情報誌40号をお届けいたします。ボリュームたっぷりで内容が充実しているでしょう。執筆の先生方に感謝申し上げます。私は情報誌の仕事を喜んでさせていただいておりこの編集の小窓への原稿も何回か携わっています。さて、今回は何を書こうかな。前回の文章を参照して見よう。そういえば我が国の安倍首相が広島と長崎で昨年と同じ内容で数のみの変更で挨拶をしたとのこと。コピペ（コピー&ペースト）を最大限に利用された事でした。それ以前に学術論文においてもコピペが話題になっておりそして社会問題にもなっていました。そうだ、その手を使おうとひらめいたのですがあまりにも季節が違いすぎます。春と秋ですから。それでこの計画は頓挫いたしました。結局は手を抜くなという事です。ここまでだいぶマスが埋まりました。やれやれ。さて今年の秋の旅行はアイヌ文化と登別温泉一泊の旅ということで諸先輩方とお目にかかれるのを今から楽しみにしております。

そういえば、「アイヌ民族はもういない」と発言したどこかの市議がおりました。そんなことはありません。そしてアイヌ文化を継承している人もいます。哲学者梅原 猛先生もおっしゃっています。縄文文化を今に伝えているのはアイヌ文化だと。今回の旅行でそれらを確認できればと思っています。小笠原大会長のもと、第42回日本放射線技術学会秋季学術大会が大盛会であることを祈念しております。では札幌でお目にかかりましょう。

(石井 勉：記)

### FAR 情報誌 No.40 (非売品)

発行日 平成26年9月15日  
発行者 山田勝彦  
編集委員会 森 克彦（委員長）  
石井 勉 橋本廣信  
山田和美  
森：連絡先 Tel&Fax. 049-225-2619  
Email:mokamokawh@gmail.com